

第3種 青苗漁港 (北海道奥尻町)

あおなえ

青苗地区特定漁港漁場整備事業計画

奥尻圏域
生産拠点



奥尻地域マリンビジョン策定(推進地域)

現状と課題

- ・漁獲物の陸揚げや選別作業は野天で行われているため、日照や降雨などによる鮮度低下、埃や鳥糞などの異物混入などが懸念されている。
- ・荒天時には、越波等による港内擾乱が発生し、漁船が安全に係留できない状況にあるほか、漁船被害も発生している。
- ・津波来襲時には、瓦礫等の漂流物により泊地が埋没し、漁業の早期再開に支障を来すおそれがある。

港勢 (H27港勢調査)

登録漁船: 104隻
利用漁船: 149隻
(内、外来漁船: 45隻)
属地陸揚量: 239トン
属地陸揚金額: 1.9億円
主な魚種: スルメイカ、ツブ
組合員数: 61人

◎青苗漁港の役割

- ・スルメイカ漁場やホッケ漁場への前進基地として、道内外のイカ釣り漁業、ホッケ底建網漁業の生産拠点

主要対策



主な整備方針

- ・地域の衛生管理の取組に対応し、漁獲物の鮮度保持や異物混入の防止を図るため、屋根付き岸壁や防塵・防砂柵等の整備を行う。
- ・越波を防止し、港内静穏度の確保により、漁船係留の安全確保や被害軽減を図るため、護岸や防波堤の嵩上げ改良を行う。
- ・津波来襲時の瓦礫等による泊地埋没の抑制、耐震強化岸壁へのアクセス確保のため、津波漂流物対策施設を整備し、漁業活動の早期再開に資する。

基本事項

計画事業費: 27.1億円
事業期間: H24~H33

主要な対策①: 衛生管理対策



野天での作業状況(異物混入の懸念)

屋根付き岸壁の整備

主要な対策②: 越波・静穏度対策



越波により、安全な係留が困難

漁船への被害も発生